

平成27年度埼玉県退職校長会の主な行事予定

- 定期総会・アトラクション・講演会・美術展：H27・6月5日(金)秩父市・ナチュラルファームシティ農園ホテル
- 支部総会：5月
- 県知事・県教委等への要望書提出：H27・9月他
- 「彩の国教育の日」協賛、現・退校長教育推進協議会：H27・10月～11月（各支部12会場）
- 現・退校長会役員研究協議会：H27・12月
- 囲碁大会：H27・10月2日(金) 別所沼会館
- 理事会：H27・10月、H28・3月（年2回）
- 支部長会：H27・5月、9月、H28・2月（年3回）
- 第10回ゴルフ大会：H27・10月8日(木)吉見ゴルフ場

支部情報 《さいたま支部【浦和班】の活動紹介》(平成26年度)

- ◇総会 5月16日(金) さいたま市民会館うらわ
総会終了後 長寿祝賀会(米寿・喜寿)並びに新会員歓迎会
- ◇理事会 年3回(4月、9月、12月)
- ◇親睦旅行 5月29日(木)、30日(金)富士山方面：河口湖温泉宿泊
- ◇現職・退職校長教育推進協議会(主催：さいたま市退職校長会) 終了後 懇親会
11月7日(金) さいたま市民会館うらわ
- ◇一日研修会 11月12日(水) 東京駅、皇居、学術文化施設ミュージアム
- ◇年末懇親会 12月23日(火) さいたま市民会館うらわ 第3回理事会終了後
- ◇幹事会 年7回 4月、7月、9月、12月、2月、3月(2回)
- ※会誌発行 『むくせい』を3年に1回発行
*平成26年度：発行年度ではない。次回(第13号)平成28年度

平成27年度 教員採用選考試験結果

	埼玉県				さいたま市			
	1次受験者	1次合格者	採用候補者	倍率	受験者	1次合格者	2次合格者	倍率
小学校教員	2,730	1,329	747	3.7	522	360	140	3.7
中学校教員	2,814	897	451	6.2	524	223	116	4.5
養護教員	322	50	25	12.9	51	20	7	7.3
栄養教員	79	10	5	15.8	20	8	2	10.0
高等学校等教員	2,254	736	350	6.4				
合計	8,199	3,022	1,578	5.2	1,117	611	265	4.2

平成27年度登載 埼玉県管理職選考試験結果

	小中校長	小中教頭	県立学校	
			前期	後期
実受験者数	691(93)	424(70)	65(7)	
1次合格者		331(63)	44(3)	21(4)
※前後期別合格者			41(3)	
※前後期別倍率			31(1)	10(3)
最終合格者	180(38)	235(50)	41(4)	
最終合計倍率	3.84	1.81	1.59	

平成27年度登載 さいたま市管理職選考試験結果

	小中校長	小中教頭
実受験者数	105(11)	118(18)
1次合格者		75(14)
最終合格者	31(4)	37(8)
最終倍率	3.26	3.19

* () 内は女性(内数)

* () 内は女性(内数)

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問：大臣→中教審)H26.11.20」 要旨

〔諮問の理由〕

前回の改訂では、「生きる力」の育成を一層重視した見直しが行われ、その成果は各種学力調査の結果にも表れている。一方、理由を付けて自分の考えを述べること、自己肯定感、学習意欲、社会参画の意識等が低いなど、子供の自信を育み能力を引き出すことは十分ではない。

新しい時代に必要となる資質・能力を育むためには、「何を教えるか」だけでなく、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、アクティブ・ラーニングやその指導方法等を充実させていく必要がある。学びの成果として「どのような力が身に付いたか」に関する学習評価の改善を図る必要もある。以上の問題意識の下、新しい時代にふさわしい学習指導要領の在り方を諮問する。

以下、具体的な審議の観点――

〔第一〕新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方(教育内容のみでなく、学習・指導方法や学習評価を一体的に進めるための指導要領の在り方)

○育成すべき資質・能力は?、各教科等の役割は?、あるべき学習・指導方法は?、アクティブ・ラーニングの在り方は?、学習成果の把握方法は?、評価は?

〔第二〕新たな教科・科目の在り方や既存の教科・科目の見直しについて

○英語の位置付、幼小の円滑な接続、教科横断的取扱

〔第三〕各学校のカリキュラム・マネジメントや学習・指導方法、評価方法の改善のための支援方策

○各学校におけるカリキュラム・マネジメント普及のための支援、新たな学習・指導方法や教材開発の支援

『年金』をめぐる最近の動向から

【H27.2.18記】

◎本欄では、最近の年金をめぐる動向として、「年金の一元化」・「年金財政検証の結果」・「マクロ経済スライドの適用」の3点を取り上げたい。その前に、現時点での次の事項を再確認しておきたい。

- ★【現行の公的年金制度】→「現役世代が収めた保険料を、その時の受給者の給付に充てる“世代間扶養”の仕組み」
- ★【公的年金制度の体系】→《3階建て》
 - 1階部分→「国民年金（基礎年金）」で、満20歳以上60歳未満国民が加入、公的年金の保険料納付の義務がある。▶給付は現在65歳から。
 - 2階部分→20歳以上60歳未満の民間サラリーマンは「厚生年金」、公務員は「共済年金」に加入義務がある。▶給付開始は、現在男子61歳、女子60歳から（段階的に65歳に引き上げられる）
 - 3階部分→「共済年金」には職域加算（1・2階部分の約8%）があり、「厚生年金」には企業年金加入者が多い。

I. 本年10月から、共済年金受給者は厚生年金に加入となり、2階部分の年金は厚生年金に一元化される

- ☆ 一元化により変わる主な内容 →（詳細は、「ニュースレター第8号」参照）
 - ① 共済年金と厚生年金の制度的な差異の解消→●基本的に厚生年金に揃える。
 - ② 3階部分の【職域加算】廃止→●新たな給付制度に→給付額やや減。但し、現受給者には従来通り支給。
 - ③ 【追加費用】（旧恩給期間→地方公務員は昭和37年12月まで）の削減→●恩給期間に係る給付を一律27%減額する。ただし、減額率の上限は年金額全体の10%とする。●削減は、平成25年8月より実施された。
 - ④ その他、●年金保険料統一で18.3%に増、60歳代前半で在職している者の年金支給停止額の増、など。

II. 【年金財政検証】の結果→30年後も「所得代替率」50%以上を維持できるか？

- ※「年金財政検証」とは→政府が、公的年金の財政状況を5年ごとに確認し、将来の見通しを立てる仕組み。
- ※「所得代替率」とは→現役の仕事員世帯の平均収入に対する年金額の割合。▲平成26年度は62.7%
- ☆ 昨年6月、第2回目の年金財政検証（平成16年の年金改革で導入）が発表された。主要部分を下記したい。
 - ① 平成16年、年金制度改正時の給付水準の見通し→●将来にわたり所得代替率50%以上を確保する。
 - ② 将来の年金水準を、A～Hの8つのケースに整理→●年金《現役収入の半分以下となる恐れ》
 - 「ケースA～E」→女性らの就労で労働力の状況が、平成42年に6582万人を維持し、その他経済が高成長又は成長の場合、厚生年金の支給水準→「所得代替率」51.0%～50.6%
 - 「ケースF～H」→労働参加が進まず労働力の状況が、平成42年に5683万人に減少、その他経済が現状又はより低迷の場合、厚生年金の支給水準→「所得代替率」45.7%～39.0%
 - <現状>→労働力の状況6555万人（平成24年）、厚生年金の支給水準→「所得代替率」62.7%
 - ③ 給付抑制が必要に→【マクロ経済スライド】の完全実施 →下記、III参照
 - ④ 年金維持のための3つの道筋（予想される対策）
 - ★受給年齢、段階的引き上げ→受け取り年齢、現在65歳を→67～68歳に引き上げる
 - ★保険料の納付期間、5年延長→現行の60歳を65歳までに引き上げる
 - ★株式を活用して、利回りを高くする→ ※GPIF（年金積立金管理運用法人）により
 - 現在129兆円ある年金積立金の→運用改革に取り組む
 - 国債中心からの転換→国債60%から35%へ ●国内・国外株式へ→12%を25%へ（合計で50%）

III. 新年度から【マクロ経済スライド】が適用される ◀将来世代の年金確保のための年金給付抑制▶

- ※「マクロ経済スライド」とは→物価や賃金の上昇率に伴って伸びる年金額を抑制する仕組み。伸び率から一定の「調整率」を差し引く。調整率は少子高齢化の進展度合いで決定される。平成16年導入されたが、これまで、物価や賃金の伸び率がマイナスとなるデフレ下では実施されなかった。
- ★平成27年4月から、公的年金を受け取る全ての人の年金額が抑制される→調整率（抑制率）は0.9%。
- ☆厚労省はスライドを30年ほど続け、最終的に今より厚生年金を2割、国民年金を3割削減する方針という。

班別会員数（平成27年1月末現在）

埼玉県退職校長会

支部	班名	会員数	合計	支部	班名	会員数	合計	支部	班名	会員数	合計	支部	班名	会員数	合計
さいたま市	浦和	170	456	入間	越生	28	693	秩父	秩父市	92	208	埼玉	春日部	64	
	与野	32			毛呂山	32			秩父	47			越谷	84	
	大宮	197			坂戸	66			小鹿野	32			久喜	125	
	岩槻	57			鶴ヶ島	11			皆野	37			八潮	23	
北足立南部	川口	199	447	比企	入間	51	278	児玉	本庄	51	137	葛	蓮田	39	
	蕨・戸田	62			東部	58			本庄児玉	29			三郷	34	
	草加	87			東松山	102			上里	20			白岡	20	
	朝霞	99			滑川	21			美里	14			宮代	35	
北足立北部	上尾	99	216	企	嵐山	17	328	大里	神川	23	318	全会員数	幸手	49	
	鴻巣	117			小川	47			熊谷	191			杉戸	33	
	川越	144			ときがわ	25			深谷	98			松伏	14	
	狭山	52			鳩山	9			寄居	39			吉川	28	
入間	所沢	140	40	東秩父	川島	19	318	北埼玉	行田	72	3,629名 (10支部57班)				
	飯能	71			吉見	24			羽生	81					
	日高	40			東秩父	14			加須	165					